

# 文京区アカデミー推進計画策定協議会

## 第1回 観光分科会 次第

日時：平成22年4月23日（金）18:30～20:15

於：文京シビックセンター21階 2101会議室

- 1 開会
- 2 自己紹介
- 3 分科会の進め方について
- 4 文京区の現状、課題等について
- 5 取り組む方向性の検討について
- 6 事業案の検討について
- 7 その他
- 8 閉会

### 《添付資料》

【資料観光－第1号】第1回分科会の進め方について

【資料観光－第2号】各分野の体系イメージ

【資料観光－第3号】各論の構成内容（案）

【資料観光－第4号】観光事業現況整理資料

【資料観光－第5号】観光ビジョン策定協議会資料「部会意見のまとめ」

## 第1回分科会の進め方について

### I 第1回分科会のテーマ

- (1) 観光の分野における文京区の課題及び取組みの方向性等を確認し、検討する。
- (2) アカデミー推進計画における分野別事業例を検討する。

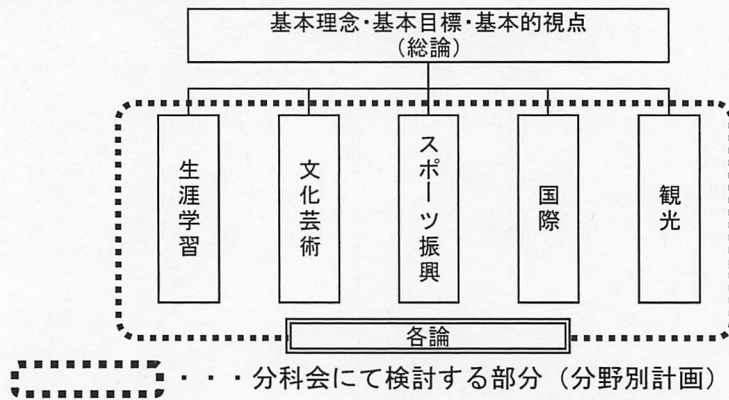
### II 本日のプログラム

時間	内容
18時30分 ～ 18時35分	開会・挨拶・委員自己紹介
18時35分 ～ 19時05分	1. はじめに (1) 分野別計画の位置づけについて (2) 分科会の流れについて (3) 現況についての説明 (4) 文京区観光ビジョンについての説明 (5) 質疑応答
19時05分 ～ 19時25分	2. 観光ビジョンをもとに、課題・取り組む方向性について 確認・検討
19時25分 ～ 19時35分	～休憩～
19時35分 ～ 20時15分	3. やったら良い事業案、やってみたい事業例の検討
20時15分	4. 挨拶・閉会

### Ⅲ 分野別計画の位置づけについて

計画全体における、分野別計画（分科会で検討する内容）の位置づけは次の通りである。

＜計画全体における分野別計画の位置づけ＞



#### ◆ 総論

- ・・・基本理念や基本目標、基本的視点など、計画全体を貫く部分。今後、社会状況の変化に応じて修正を行う。

#### ◆ 各論（分科会にて検討する分野別計画）

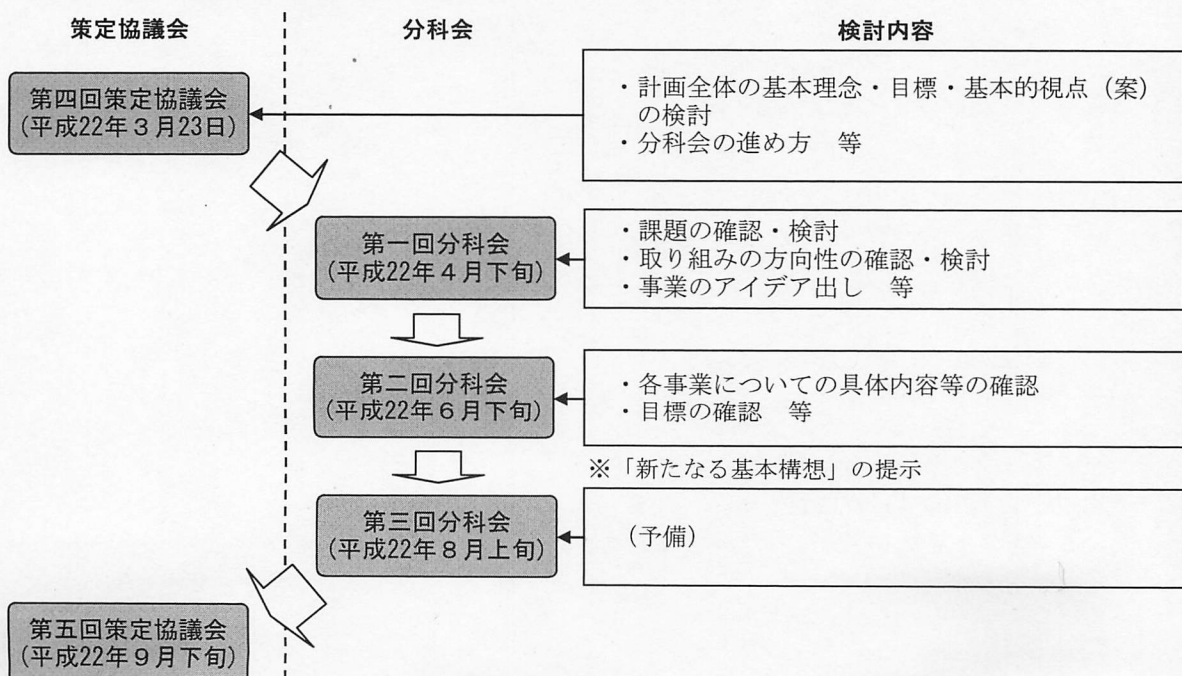
- ・・・各分野の計画を指す。3年を計画期間とし、その中で各事業の評価や見直しを行っていく。（ただし、各事業の目標は必ずしも3年で達成できる内容だけではない）

☞ 計画各論の体系イメージは【資料観光－第2号】各分野の体系イメージ、構成内容（案）は【資料観光－第3号】計画各論の構成内容（案）を参照

### Ⅳ 分科会の目的

推進計画の各分野について議論を行うことを目的とする。策定協議会にて議論したアカデミー推進計画の、基本理念、基本目標、基本的視点に沿い、分野ごとの内容をより深く議論する。そして、分野別計画の事業例、数値目標例（可能な場合）等を作成する。

### Ⅴ 分科会の流れについて（予定）



## VI 第2回分科会の検討テーマ

- ◆ 第2回分科会は、本日お出しいただいた事業案及び既存事業を「基本的方向」に沿って整理します。
- ◆ 第1回での検討及びご意見シートを踏まえ、分野別計画の目標等を確認します。

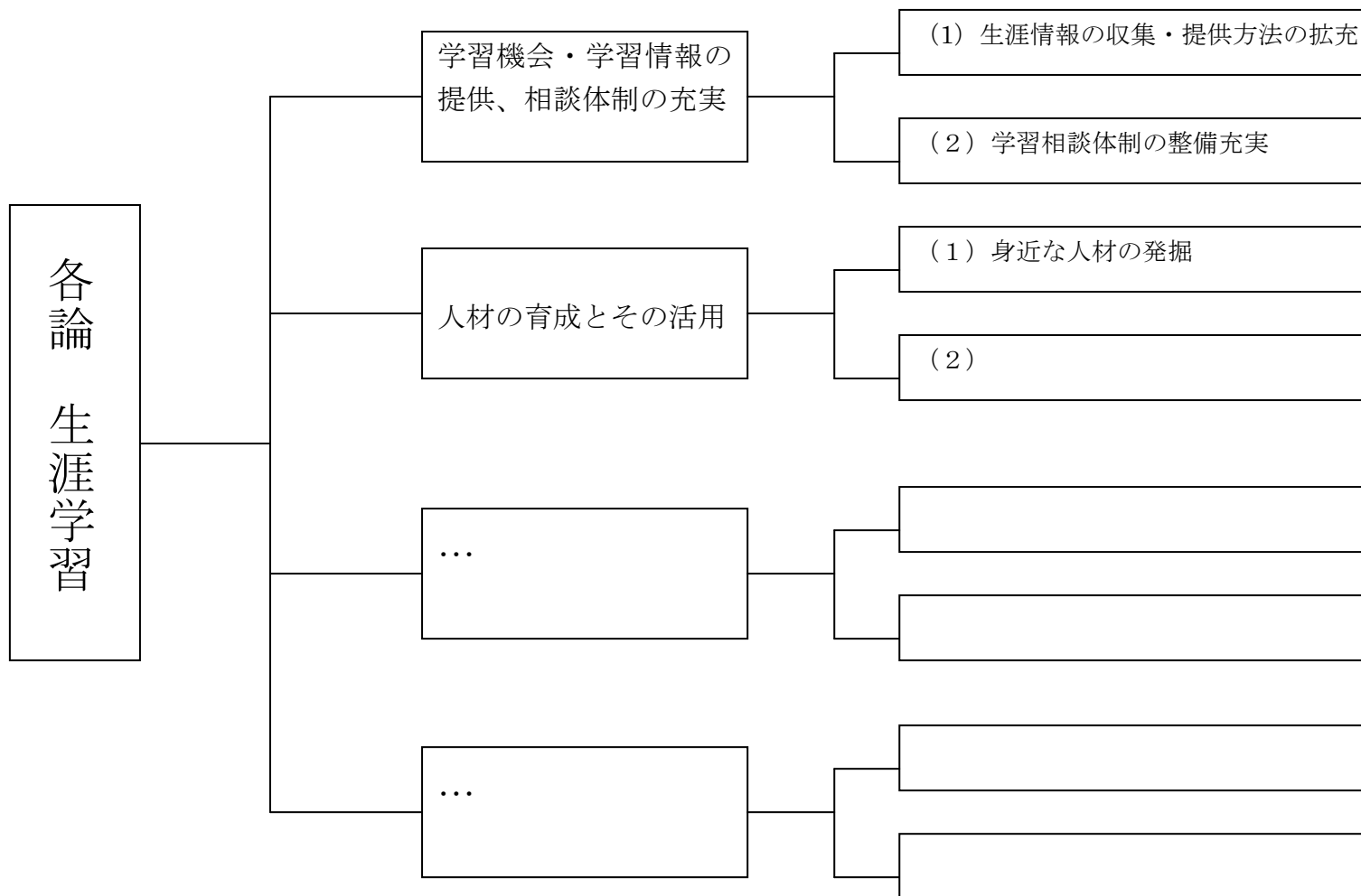
以上

各分野の体系イメージ

分野別の目標

基本的な方向

事業例



- ①情報誌面検討会議の設置
- ②総合情報掲載HPの製作
- ③…
- ①生涯学習相談室の設置
- ②相談員育成講座の開設
- ③…

## 各論の構成内容（案）

### I 生涯学習計画の推進

#### 1 学習機会・学習情報の提供、相談体制の充実

##### 【現状と課題】

学習情報等の提供については、広く区民に対し区報、ケーブルテレビ、ホームページ等を通じて提供していますが、区民からは、「PR方法の検討」などが課題とされている。また、各種情報や相談体制等の充実を図ることの必要性も指摘されています。

区民の自発的な活動や多様な学習ニーズに対応するため、こうした活動を支え、さらに活性化していくため、人材や講座などの学習情報の収集をし、その情報をわかりやすい魅力的な内容で、広く区民に伝達や相談できる機会を支援する体制の確立が求められています。

##### 【基本的な方向】

学習したいと思ったときに、気軽に希望する学習情報が入手でき、指導者や効果的な学習方法、学習グループの紹介など多様な区民の相談に応じられるような学習情報を収集整理する仕組みを検討するほか、学習意欲を具体的な生涯学習活動に結び付けていく学習相談体制の充実を図ります。

#### (1) 学習情報の収集・提供方法の拡充

##### 期待される効果

- ・必要な情報が気軽に入手できることにより、学習へのきっかけづくりや各種の講座等への参加が推進される。
- ・学習情報の一元化により情報ネットワークの充実が図られ、情報が得やすくなる。

#### (2) 学習相談体制の整備充実

##### 期待される効果

- ・区民の身近な学習施設において、様々な学習相談に対応できる知識や技能の相談体制を充実することにより、学習意欲に対する的確な対応が可能となる。
- ・区民が気軽に的確なアドバイスが受けられることができる。

## 2 人材の育成とその活用

### 【現状と課題】

地域には、さまざまな分野で生涯学習を実践し活動に取り組んでいる人たちがたくさんいます。これからの生涯学習を推進していくためには、潜在的な人材の掘り起こしと育成が必要となります。

本区では、平成18年度から生涯学習司、地域文化インタープリターや文京アカデミアサポーター等の地域貢献のできる人材育成講座を実施し、現在〇〇名を数えています。学んだ知識を地域に還元し、多方面にわたり活躍できる場を開拓する必要があります。

### 【基本的な方向】

#### (1) 身近な人材の発掘

地域に存在する人材を発掘し、身近な実践者の学習事例に触れる機会や、学習方法等についてアドバイスが受けられるなど、効果的な活動を進めることができるような仕組みづくりの展開を図ります。

#### 期待される効果

- ・多彩な知識や技能を、地域等において有効活用することで、知識・技能の伝承が図られる。
- ・地域社会へ参加するという、きっかけとなる場づくりが創出される。

・  
・  
・

### 【事業】

	施策	事業例	内容
I-1	学習機会・学習情報の提供、相談体制の充実	情報誌面検討会議の設置	.....
		総合情報掲載HPの製作	.....
		生涯学習相談室の設置	.....
		相談員育成講座の開設	.....

I-2	人材の育成とその活用	.....	.....
		.....	.....
		.....	.....
		.....	.....
I-3	.....	.....	.....
		.....	.....
		.....	.....



観光事業現況整理資料(平成21年度観光事業)

【資料観光一第4号】

事業番号	事業名	事業概要	説明				来場者数 (21年度)	スタッフ(ボランティア保険加入者数)
			名称	期間	会場	開始年度		
1	五大まつり助成	文京花の五大まつりの広告・宣伝経費及び演芸等事業経費の補助を行うことでまつりの振興と発展を図る。	第40回文京つつじまつり	4月10日(金)～5月6日(水)	根津神社境内	昭和28年度	約65万人	93人
			第25回文京あじさいまつり	6月6日(土)～6月14日(日)	白山神社・白山公園	昭和60年度	約27万人	46人
			第31回文京菊まつり	11月1日(日)～11月23日(月)	湯島天満宮	昭和50年度	約30万人	26人
			第53回文京梅まつり	2月8日(月)～3月8日(月)	湯島天満宮	昭和31年度	約45万人	46人
			第39回文京さくらまつり	3月20日(土)～4月4日(日)	播磨坂さくら並木	昭和43年度	※約7万5千人	61人
2	文京朝顔・ほおずき市助成	小石川地区のコミュニティの推進とまちの活性化を図るとともに、観光客を誘致する。	第24回文京朝顔・ほおずき市	7月18日(土)・7月19日(日)	伝通院・源覚寺	昭和61年度	約3万5千人	51人
			伝通院と源覚寺を中心とした地域の町会と商店街から成る実行委員会が運営している。					
3	下町まつり助成	根津・千駄木地域の風情・情緒・人情をテーマに観光客を誘致するとともに、商店街の発展及び活性化並びにコミュニティ形成の促進を図る。	第11回根津・千駄木下町まつり	10月24日(土)・10月25日(日)	根津神社ほか7ヶ所	平成11年度	約7万人	101人
			平成元年度から、文京区・台東区提携事業として「文京・台東下町まつり」を実施してきたが平成10年度をもって終了となった。平成11年度からは、地元両地区の町会・商店街・青少年対策地区委員等地域の方々が主体となった根津・汐見地区合同事業実行委員会が実施。事務局は、根津地区と千駄木地区が毎年交代で当番となって、まつりの企画や運営を計画している。					
4	観光まつり振興	花の五大まつり、文京ゆかりの文人支援事業の開催の支援とポスター等の情報発信により観光振興を図る。	①まつり仮設トイレ設置等委託 ②観光ポスター作成、掲出委託 ③文京ゆかりの文人支援事業…一葉忌に合わせた事業に補助金を支出					
5	観光リーフレット作成助成	区内観光施設及び名所・旧跡を紹介するリーフレットを作成するため観光協会に補助金を支出する。	文の京観光ガイド「おさんぼくん」(日本語版30,000部、英語版5,000部、中国語版5,000部、韓国語版5,000部)を作成する。中国語、韓国語は21年度から作成。					
6	観光案内板の整備	区内観光施設及び名所・旧跡を紹介した観光案内板並びに「歴史と文化の散歩道」のコースを紹介した案内板の補修等を行う。	区内に設置された15基の案内板と「歴史と文化の散歩道」の案内板118基の補修等を行う。					
7	観光協会観光振興助成	文京区観光協会の事業経費等の補助を行うことで文京区の観光振興の発展と地域の活性化を図る。	観光客誘致事業(観光ニュースの発行、観光写真コンクールの実施ほか)及び事務局運営費を助成する。					
8	観光インフォメーション運営	シビックセンター1階の観光インフォメーションを運営する。	平成21年4月3日開所。年末年始を除く年中無休で運営する。観光インフォメーションの運営は文京区観光協会に委託。				1日平均84人	
9	観光ビジョンの策定	文京区の観光振興の方向性を示し、計画的・総合的に各種の事業を展開するため観光ビジョンを策定する。	平成20年6月から文京区観光ビジョン策定協議会を開催し、文京区の観光振興の方向性を検討した。パブリックコメントの手続きを経て、8月に策定された。					

※は20年度実績

## 観光事業現況整理資料（22年度事業）

（観光事業）

No.	事業名	事業概要
1	五大まつり助成	文京花の五大まつりの広告・宣伝経費及び演芸等事業経費の補助を行うことでまつりの振興と発展を図る。
2	文京朝顔・ほおずき市助成	小石川地区のコミュニティの推進とまちの活性化を図るとともに、観光客を誘致する。
3	下町まつり助成	根津・千駄木地域の風情・情緒・人情をテーマに観光客を誘致するとともに、商店街の発展及び活性化並びにコミュニティ形成の促進を図る。
4	観光まつり振興	花の五大まつり、文京ゆかりの文人支援事業の開催の支援とポスター等の情報発信により観光振興を図る。
5	観光リーフレット作成助成	区内観光施設及び名所・旧跡を紹介するリーフレットを作成するため観光協会に補助金を支出する。
6	観光案内板の整備	区内観光施設及び名所・旧跡を紹介した観光案内板並びに「歴史と文化の散歩道」のコースを紹介した案内板の補修等を行う。
7	観光協会観光振興助成	文京区観光協会の事業経費等の補助を行うことで文京区の観光振興の発展と地域の活性化を図る。
拡充	8 観光インフォメーション運営	観光インフォメーションの管理運営を委託する。「観光ガイドの育成及び実施」を22年度新規事業として行う。
新規	9 案内標識等統一化計画の策定	区内全標識の実態を把握し、各所管とともに既存標識の集約・改修及び新標識の設置に係るガイドライン等を策定する。
新規	10 まちあるきルート開発	区内観光資源等を洗い直し、それらを活用したルート開発するとともに、その販売も行う。

1 まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出

○第1部会 ●第2部会

来訪者へのアピール	○武家文化を有機的につなげる。
	○まちあるきの素材・人材はすでにあるがつながっていない。様々なテーマのまちあるきの題材として資源を結びつけることは可能である。
	○坂や町名の由来などを紹介する標示の活用策を考える。
	○タイムリーな切り口でまとめる工夫・スピード感が必要である。
	○ワクワクする気持ちにさせる文京区らしいエンターテインメント性が必要である。観光資源の磨き上げ
	○「期間限定の事業」「年間を通じた事業」の2本立てで考える。
	●文京区の観光資源は見えづらいためストーリーで想像させる。
	●他区の資源も含め、区内の資源をストーリーでつないでいく。
	●他区から文京区まで誘導する仕組みをつくる。
	●魅力ある事業があっても知られていない。事業を見える形にする。
●区内の小さなエリアでまちあるきイベントを数多く実施する。	
区民へのアピール	○まちあるきのプランニングの段階で住民も一緒に取り組む必要がある。
	●住民に地元の良さを知ってもらうイベントを実施する。
	●区民自身が区内の資源／商店街を把握していないため、区内の観光スポットを巡ってもらう。
	●文京区ゆかりの映画を見る講座を開催する。(文京区を歩ききっかけ作り)
	●住民の意識を変える取り組みが必要である。
	●区民から観光資源を公募する。(区民への意識づけ)
	●「観光の日」に区長を先頭に職員が区内をガイドする。(職員の意識づけ)
	●お国自慢をする。(価値観の共有)
共通	●「まちあるきの日」「観光の日」など特定の日、ウィークを設け、区民／来訪者にまちあるき等を楽しんでもらう。
	○●区内の商店街との連携は必須である。
今まで出た意見	未利用のもの、知られていないものも含めて観光資源・施設を整備し独自性を考えていく。
	学びの現場と観光との関係について考える。
	まちあるきを促進、来訪者のために新旧のブランドを発掘・育てていく(お土産、食べ歩き等)。
	全国的にメジャーな魅力を創出していく。
	五大まつりなどの縁をテーマとしたお祭りを増やし、歳時記的につなぐことで溢れる文京区観光とする。
	文京区が何を打ち出すのか絞り込みが必要
	文京区の観光で守るべきもの(=独自性)、点ではなく線・面としての魅力
	観光を意図的に「演出」する必要がある(自然な意識醸成には時間を要する)。
	まちなかでの回遊性の強化策が必要
文京区のもの好きになってもらうプロジェクト	

## 2 文京まちあるきのための環境整備

来訪者へのアピール	○坂や町名の由来などを紹介する標示は統一感をもたせたものとする。
	○かつての姿を想像できるようなデザインとする。
	○来訪者のまちなかでのマナーを向上させる策が必要である。
	○樋口一葉の井戸など特に住民に配慮が必要な場所にはステータス／インセンティブを持たせた限定ツアーとしてマナー向上を促す。
	●ストレス改善策が必要である。(オリエンテーションの場所、歩行者の安全確保)
	●都の整備補助金などによりトイレのバリアフリーを進める。
	●公衆トイレは汚い。危ない。新たな場所に公衆トイレを作る必要はない。
	●バイオチップトイレなど環境に配慮したトイレを取り入れる。
	○トイレ利用者のマナーが低下していることから、商店街ではトイレを貸し出しにくい状況がある。
	○●商店街でトイレを貸し出す。(貸出し可の商店を案内する)
○●区の施設のトイレを来訪者にも開放する。	
○●利用できるトイレの標示は統一されたわかりやすいデザインとする。	
区民へのアピール	○景観を壊さないルール作りなどの方策が必要である。
	○優れた景観は残していくものとして位置付ける必要がある。
	○マナー改善のアイデア集を作成する。
	○●みどり、建物等、一度壊すと元に戻すことは難しい。保存のあり方を考える必要がある。
	●電線の地中化、緑の保存を進めるべきである。
	●区のまちづくりに観光の視点を盛り込む。
	●観光協会を景観審議会のメンバーとして加えるべきである。
	●景観の向上に寄与した施設等に対してインセンティブを与えるべきである。
●潤い、やすらぎのある建物がキーワードの「まちづくり景観賞」を新設する。また、周囲の景観に配慮した景観には、「文京区人にやさしい景観づくり賞区長賞」などを授与しても良いのではないか。	
●規制だけではなく、景観に協力した施設に対してに「ほめる」「育成する」という考え方を行政に取り入れることが大切である。	
共通	●高齢者、障害者などの弱者への配慮を視野に入れてまちづくりの整備を進める必要がある。(ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくり)
今まで出た意見	案内板の設置や「Bーぐる」の改善などによりまちなかの回遊性を向上させる。
	植栽によりみどりの美しい道を演出する。
	まちあるきの促進、住環境の向上のための商業活性化(大型商業施設と商店街の連携等)
	住環境の悪化に対する不安の軽減方策が必要である。
	住環境保全と調和の取れた観光-活力ある、暮らしやすい、魅力ある地域
	区民と観光者双方の軽減を考える(節度を保った態度=ふるまい方)。
	環境・地球・人にやさしい
来訪者への災害時(大地震)の対策	

### 3 文京まちあるきを通じた交流の場・機会の創出

来訪者へのアピール	●所用での来訪者に“ついで”“短時間”の観光を提供するツールをつくる。
	○「期間限定の事業」「年間を通じた事業」の2本立てで考える。
	●区内の小さなエリアでまちあるきイベントを数多く実施する。
区民へのアピール	○昔のことを知っている人の話を聞く場を設ける。(世代間交流や新旧住民間交流のきっかけとなる。)
	●新住民が地域の自治会等に参加するきっかけを作る。(マンション管理組合理事長や新聞販売店店主を世話人とする)
	●孫と一緒に町内の祭りに参加する仕組みを作る。
	●新住民に対して積極的に地域の生活情報(買い物をする場所など)を発信する。
	●区民に観光スポットを巡ってもらい、文京区の良さを知ってもらう。交流の場を設ける。
	●住民に地元の良さを知ってもらうイベントを実施する。
	●「観光の日」に区長を先頭に職員が区内をガイドする。(職員の意識づけ)
共通	○区民対象の講座と来訪者対象の講座をコラボレートさせ区民と来訪者の交流の機会を創出する。
	○●住民と来訪者が同じ講座を受講する場合は、受講料等で区民と区民以外をある程度差別化させる。
	●「まちあるきの日」「観光の日」など特定の日、ウィークを設け、区民／来訪者にまちあるき等を楽しんでもらう。
今まで出た意見	MICEにより交流の場を創出する。
	まず好きになってもらうプロジェクトを作る。
	住民のホスピタリティを醸成する。来訪者や新住民を温かく地域コミュニティに迎え入れる。
	安全安心を観光客に提供していく。
	庭園・神社仏閣・大学等の連携による観光化
	観光を通じて区民と来訪者の双方が創造的な刺激を受ける。
	多様な交流から感動・出会い、地域への愛着が生まれる。
	文京区の観光＝多様な来訪者の受入れ(限定しないことが大切)
	さまざまな交流の場の創出(リアル&バーチャル)
	「おせっかいなまちづくり」をすすめる。(おせっかい＝交流)

4-1 情報発信

来訪者へのアピール	○来訪者に必要な情報(食事処・土産物屋・トイレなど)を1つのパンフレットにまとめる。
	○外国語表記のパンフレット・マップをつくる。
	○パンフレットやマップは旅館だけでなく商店街などにも配布する。
	○パンフレットやマップの設置箇所へ定期的に補充を行う。
	○どのように利用するのか、どこに配布するのか検討したうえでパンフレットやマップを作成する。
	○パンフレットやマップに住民に対する配慮事項を掲載する。
	○武家文化に焦点をあててアピールする。
	○まちあるきのテーマを考える。(武家文化、重要文化財、文学散歩)
	○タイムリーな切り口でまとめる。
	○坂や町名の由来などを紹介する標示を読みやすい内容とする。
	○年間を通した取り組みと期間限定の取り組みを区別して情報発信をする。
	●五大まつりが知られていない。
	●見る側を意識した見せ方が必要。
	●取り組みを可視化させる積極的な情報発信が必要である。
	●所用での来訪者に”ついで””短時間”の観光を提供するツールをつくる。
	○対象者によってメディアを使い分ける必要がある。
	○旅行記者クラブに情報を流して、雑誌等で文京区を取り上げてもらう機会を増やす。
	○資源が豊富であるだけにテーマやターゲットを絞った情報発信とすべきである。
	○駅を起点としたまちあるきのパンフレットやマップ等の紙媒体を設置する。
	○TV・新聞を利用した情報発信は、来訪の“きっかけ”となりやすい。
	●新たな取り組みをしている店を伝えていく。
●区の道路台帳、グーグルの無料地図を活用する。	
区民へのアピール	○おもてなしガイドブックを作成する。
	○マナー改善のアイデア集を作成する。
	●区民自身が区内の資源／商店街を把握していないため、区内の観光スポットを巡ってもらう。
	●住民の意識を変える取り組みが必要である。
	●住民が来訪者と同じ価値観を共有する必要がある。
	●新住民に対して積極的に地域の生活情報(買い物をする場所など)を発信する。
	●新住民の町会への加入など、地域コミュニティへの積極的な参加を促す。
	●通勤者、学生、留学生に区内のことを知ってもらう。
	●区内出版社を利用して区お墨付きの情報誌として区民に向けた情報発信を行う。
	●地域の情報が不足している。(地域の生活情報を伝えることが必要)
	●マンション等はポスティングを禁止していることが多く地域の情報が届いていないことがある。
	●CATV、HP、区報などのクロスメディア戦略が必要である。
	●デジタル映像を備蓄し2011年の地上デジタル放送に備える必要がある。
	●「The文京区」のような冊子があると便利である。

4-2 情報発信

共通	●特定の「まちあるきの日」「観光の日」などを設け、区民／来訪者に来てもらう。
	●東京商工会議所文京区支部では区内の商店を創業歴等でグルーピングし「文京ブランド」を構築していくよう検討している。
	○区内のエリアごとに地元の人により作成された地域情報紙を発行する。フォーマットがあれば情報は集まってくるだろう。
	●住民向け・来訪者向けと情報を仕分ける必要はないが、ジャーナリズムの視点を入れた情報発信は必要となる。
	●まちあるきに適合性があるQRコードを利用して携帯で情報を入手できるような仕組みを作る。
	●“るるぶ”や“まっぷる”“東京人”などを活用して地域情報を発信する。
	●半官半民で同人誌的に情報誌を発行する。
	●区役所内の各所管で作成されているマップ等を商店街から医療まで暮らしに関わる情報を集約した冊子を作成する。
	●地域の人が発信するブログを立ち上げ、それを起点としてブログを活用した情報発信を広げる。最初は他のブログを利用して露出を増やす、管理者に謝礼金を出すなどの仕込みも必要である。
	○スタンプラリーやSNSなど来訪者のリピーター化を促す施策を活用する。
○観光やまちづくりに関する団体の活動や作成したマップなどの情報を行政に集約する。	
●行政と民間の役割を明確にし、それぞれ情報発信方法を検討する。	
今まで出た意見	宿泊施設や大型施設などの多様な主体から、それぞれの来訪者の特性に応じた情報発信を行っていく。
	来訪者のイメージを絞り込まない。見せ方ひとつで全ての人を招きいれられる。
	インバウンドへの対応
	観光インフォメーションセンターの設置が急務である。
	WEB、SNS、GIS等のオープンソースを利用する。
	住民の地域の歴史、文化、産業への理解の深化
	住民へのビジョンの理解・浸透策
	「文京区」を全国に発信する。「文京区」をブランド化し、全国に示していく。＝「文の京」というフレーズを使う。

5 観光まちづくり人材育成

来訪者へのアピール	○“専門の知識を備えた専門ガイド”と“ホスピタリティ意識あふれる地元ガイド”両輪で進める必要がある。
	○「* * ができる」「* * ならできる」という人を「人材バンク」に登録する。
	○定点ガイドとツアーガイドを育成する必要がある。
	●特別な知識は有していないがある程度何でも知っているというガイドも必要である。 ●来訪者とガイド(ボランティア・専門家)をつなぐ役割も必要である。
区民へのアピール	○住民がボランティアガイドとなるよう挨拶・声掛け・道案内などが草の根的に広がる仕掛けが必要である。
	○プロのガイドと住民の育成の仕分けが必要である。
	○ボランティアガイドの育成には、ガイドのモチベーションをあげるためのインセンティブも必要である。
	○ボランティアガイドの活動は有償とし持続的な活動となるようにする。
	○ボランティアガイドの活動を“まとめる人”が必要である。
	○まちあるきのプランニングの段階で住民も一緒に取り組む必要がある。
	○おもてなしガイドブックを作成する。
	○行政内部のつながりを柔軟にする。
	●留学生を活用して、留学生自身に文京区のファンになってもらう。
	●区民の意識付けのためにも区民から資源を公募する。
	●区民の“お宝探し”を実施する。
	●「観光の日」に区長を先頭に職員が区内をガイドする。(職員の意識づけ)
	●企業、大学の地域貢献を利用する。
	●区内大学生の活用は、教員の負担とならないよう学生組織と直接つながるとよいのではないか。
	●区内大学生を観光協会のインターンとして活用する。
	○区内の大学生に商店街活性化方策の提案を募集する。
	○行政は講座の開催など人材育成のきっかけを作り、住民の自主的な活動を促していくという手法もある。
	○会社員も講座に通えるように講座の開催日時等に配慮するなど人が集まりやすいよう工夫する必要がある。
	●観光協会の人材を育成する。
	●新住民の町会への加入を促す。新旧住民、若い世代と一緒に取り組む。
共通	●観光振興の受益者として商店街が引っ張っていくべきである。また、町会と商店会の重なりも多くコミュニティに寄与している。
	●町内会、学校、商店会との連携により地域ホスピタリティづくりの土台とする。
	○居住地に関わらず文京区を舞台として活躍する人材を広く集める必要がある。
今まで出た意見	文京アカデミーや大学を通じて専門家を育成、地域での学習会等により住民ガイドを育成する。
	区の主導による観光ボランティアの大量育成
	住民のホスピタリティの向上(住民の気付きの促進)。来訪者や新住民を温かく地域コミュニティに迎え入れる。
	江戸しぐさを学校で教える。
	文京学の開催など文京区を好きになるプロジェクトを実施する。
将来文京区の観光を担う子供達に対する啓発活動を行う。	



## 6 観光推進体制の構築

来訪者	○文京区ファンクラブをつくる。(MLやスタンプラリーなど何度も訪れたいくなる仕掛けをつくる。)
	○またまわってみたいと思わせる仕組み(割引制度等)を作る。
区民へのアピール	○まちあるきの素材・人材はすでにあるがつながっていない。
	○つながりががないため何か仕掛けようと思ってもどこに声をかけると良いのか分からない。
	○人や組織をつなぐコーディネート機能が足りない。
	○ミュージネットなど既にあるつながりを利用して進めていく。
	○スピード感をもって取り組む体制が必要である。
	○区内の様々な部門(建築・土木など)の取り組みにも観光ビジョンの内容を反映させる必要がある。
	○商店街との連携も必要である。商店街店主による商店街ガイドなど商店街では観光を意識した自主的な活動を進めていく必要がある。
	●区内の民間企業や住民団体を活用し、行政はサポートに徹する。
	●企業のメセナ活動の一つとして、区内民間企業の協力のもと観光振興を進める。
	●具体的なアクションは民間主導で進める。
	●住民団体はエゴで活動を進める場合もあるため、扱いを慎重する必要がある。
	●行政、民間事業者、住民の役割を明確にする。
	●観光協会と観光振興の受益者である宿泊施設はより積極的に取り組むべきである。
	●「本郷の旅館は文京の文化」として一緒に取り込むよう提案していく。
	●企業、大学、NPO、行政の連絡会議を開催する。
	○大学との連携を強める。(東洋大学国際観光学科との連携など)
	○行政がハブとなり他の地区のガイド団体とも連携を図る。
	○ぶんぶんカードの加入率アップを図る。加入することの魅力を打ち出す。加入店は、エコや地域貢献のために資金を負担している等
	●テーマ次第で近隣区との広域的な連携を組んでいく。
	●NPO法人化などを視野にいれた観光協会の強化が必要である。
●観光協会に土産物販売やランドオペレーション機能をもたせ、独自財源を有する自立した組織を目指す。	
●観光協会に旅行会社出身のプロデューサーを設置するなど推進力のあるリーダーにより活動を進めることが必要である。	
●観光協会に実働部隊を設置し、商店街・本郷旅館組合・その他関連団体など受益者を中心として活動を進める。	
●国の補助金を積極的に活用していくべきである。	
●行政は観光統計／動向調査など各種データ類は必要となるため調査を継続的に実施する必要がある。	
共通	○新たな取り組みを始めるには、新たな組織体制も必要ではないか。
	○区としてのコンセプトが弱い部分がある。
	●文京区観光ビジョン協議会で構築されたネットワークを活用する。
今まで出た意見	まちづくり予算でも観光客向けに整備するなど、観光を意識したまちづくりを進める。
	観光関連予算の使い方についても議論する必要がある。
	区長直轄のプロジェクト推進室など行政内における横断的な組織体制をつくる。
	行政の役割と姿勢を明確化させる。
	若い世代の実行委員会による地元イベントの立ち上げなどにより観光関連業者の連携・協力体制をつくる。
	旅館経営者など受益者主導、民間主導で進める。
	PDCAに基づいた計画等の実施
	広域連携を視野に入れた区外の観光推進体制との連携
「住みよいまち」と「観光の魅力」の両者は必ずしも一致しない。優先順位を付けて取り組む必要性	
既存観光業者の取り込み	
観光協会の機能強化	

## その他の意見

- 理念等に時代性が感じられない。
- 地球環境の保全の考え方を取り入れた方がよい。
- インバウンドを取り入れた方がよい。
- 理念に「環境」「安全・安心(超高齢社会に対応)」の考え方を取り入れた方がよい。
- 住民が参加してくれるビジョンを作らないといけない。
- 内外の客が繰り返し来てくれるという考え方を目標の中に入れる。
- 言葉の使い方を工夫する必要がある。
- 「文の京」そのものが「歴史と文化」をイメージさせるものなのではないか。